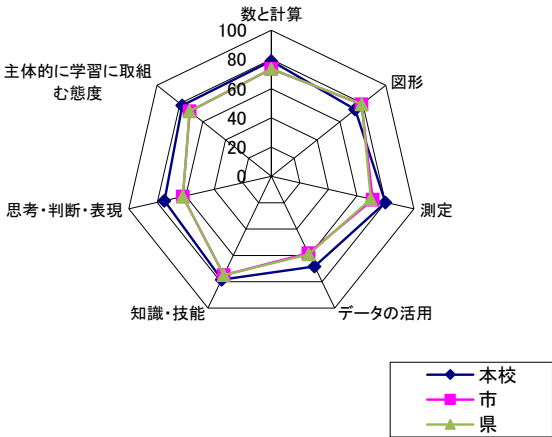


宇都宮市立清原北小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	79.0	73.5	73.6
	図形	73.3	79.0	79.1
	測定	80.0	71.1	69.8
	データの活用	68.3	58.4	59.2
観点	知識・技能	78.4	75.0	75.0
	思考・判断・表現	75.0	62.1	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	77.9	71.4	71.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は市・県より高い。 ○わり算の正答率は90%と高く、2けた÷1けたの正答率は100%であった。 ●「かけ算の筆算に出てくる数の意味を理解している」という問題の正答率が40%と低い。	・朝の学習や宿題などを利用して基本的な計算問題に取り組ませ、計算する力を身に付けさせる。 ・ペアやグループなどで自分の言葉で計算の説明をする機会を多く設け、くり上がりの数の意味を理解させる。
図形	平均正答率は市・県より低い。 ○正三角形を作図する問題は正答率が90%と高い。 ●球の半径から球が1つ入った箱の辺の長さを求める問題の正答率は55%と低い。	・半径や直径について理解、確認をし、求める数の計算に必要な情報を図に書き込んでイメージを高め、問題を解く習慣を身に付けさせる。
測定	平均正答率は市・県より高い。 ○道のりの意味を理解しているかについての問題の正答率は95%と高い。 ●ある時刻から一定時間が経過する前の時刻を求める問題では、県の正答率と同じであるが、70%とやや低い。	・朝の学習の時間を利用し、基礎的な問題に繰り返し取り組み、基礎基本の定着を図る。 ・学校生活の中で、残り時間を意識させたり、計画を立てて活動に取り組んだりする場面を意図的に設定したりすることで、時間の感覚を育む。 ・長さ、時刻、重さなどの単位では、具体物を活用し、予想してから実測することで、実生活と結びつけて量的な感覚を高める。
データの活用	平均正答率は市や県より高い。 ○複数のグラフを組み合わせたグラフを読み取る問題の正答率は県の正答率を14ポイント上回っており75%とやや高い。 ●棒グラフを正しく読み取る問題の正答率は60%とやや低くなっている。	・グラフを正しく読み取る力を身に付けるために、授業の中でグラフを使った問題を多く取り入れ正しい情報をつかみ取ることができるようにする。